



亀中だより

No.8 令和8年5月12日 文責 岡田



For The Students!

「亀山はいい。土地柄も、人柄も…。 町がいい。自然がいい。早く亀山に帰って、ゆっくりしたい！」

これが誰の言葉かご存じでしょうか。こう言ったのは、みなさんの大先輩、この学校の卒業生であり、エベレスト北壁からの登頂に世界で初めて成功した亀山が生んだ世界的登山家・尾崎隆(オザキタカシ)さんです。当時は未踏のルートであった北壁からの登頂、この偉大な出来事は今から46年前、1980年5月10日のことでした。

尾崎さんは、1952(昭和27)年、3人兄弟の次男として、亀山市本町四丁目で生まれました。子どものころから山登りが大好きだった尾崎さんは、高校では山岳部に所属し、御在所岳などをフィールドに活動されたそうです。

その後、就職してからも休日は御在所岳の岩場に通い、トレーニングに励み、19歳の時にはヨーロッパ・アルプスへの登頂を果たし、着実に登山家への道を進みました。そして1980年、重広恒夫さんとともに、ついにエベレスト北壁から世界初の登頂に成功されたのです。



写真は「広報かめやま 2011(平成23)年7月1日号」からお借りしました。

ただ、そんな尾崎さんも、この世界的な偉業を達成するまで、ずっと順風満帆だったわけではなかったようです。自身が尊敬する著名な登山家の死をきっかけに、「自分の命は一体何なのか」「なぜそんな危険をおかしてまで登らねばならないのか」と自問自答する時期がありました。そして、死の恐怖に耐えられなくなり、それまで情熱の全てを傾けていた登山を止めてしまった時期もあったそうです。こんな偉大な登山家にも、スランプや挫折があり、それを乗り越えたからこそその偉業といえるのですね。



亀山から、そしてこの亀山中学校から生まれた偉大な先輩が、野登山や御在所岳といった我々にもなじみの深いふるさとの山での体験から、世界最高峰の山にたどり着いた人生は、私たちにも大きな夢や可能性を教えてください。尾崎さんが自らの人生の目標に出会い、その実現に向けて登山の本を読みあさり、石水溪の鬼ガ牙などで岩登りの練習を積み重ねた少年時代が、のちに世界的なアルピニストとなる礎です。中学生のみなさんにも刺激的なお話ではないでしょうか。

実は、今日5月12日は尾崎さんの命日です。2011年のこの日、尾崎さんは世界最高峰のエベレスト(中国名チョモランマ=8,848m)で、登山中に高山病で帰らぬ人となりました。享年58歳。生前、尾崎さんが亀山を回想して話されたのが、「亀山はいい。土地柄も、人柄も…。町がいい。自然がいい。早く亀山に帰って、ゆっくりしたい」という言葉です。みなさんの故郷は、こんな気持ちになれるところです。偉大な先輩の功績とともに、故郷に対する気持ちを私たちも大切にしていきたいです。

(この学校だよりは尾崎さんのご家族、亀山市広報秘書課広報グループの許可を得て作成しました)